

平成16年度病害虫発生予察特殊報第3号(ダイジェスト版)

病名: 退緑斑紋病(仮称)

病原菌名: *Capsicum chlorosis virus*(CaCV)

作物名: ピーマン

平成14年12月頃から安芸郡、南国市、土佐市の施設栽培ピーマンでこれまでとは異なった病害と思われる症状が発生し、農業・生物系特定産業技術研究機構九州沖縄農研センターに同定を依頼したところ、日本では未確認の *Capsicum chlorosis virus*(カプシューム クロロシス ウイルス、CaCV)による新しい病害であることが明らかとなり、平成17年3月に退緑斑紋病(仮称)として報告されました。

葉の病徴はかなり特徴的で、退緑斑紋(写真1)や極めて明瞭な輪紋症状(写真2)を生じ、果実では軽度の奇形やモザイクを生じます。また、株単位で発生し、ほ場内で一気に多発した事例は報告されていません。

この病原ウイルスはアザミウマ類によって伝染しますが、媒介種など詳細については現在調査中です。寄主植物についてもトマト、ピーマン以外の報告はなく、また、オーストラリアと高知県以外では見つかっていません。

防除対策としては、発生ほ場での感染株の抜き取り・埋没処分と媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底することが重要です。病徴が特徴的であるため識別は比較的容易ですが、確認のためには遺伝子診断が必要であり、新たな発生が疑われる場合は、各農業振興センター、病害虫防除所にご連絡ください。



写真1:退緑斑紋症状

写真2:明瞭な輪紋症状



写真3:発病株の症状

